

貯法：1. 気密容器に入れて遮光保存。
2. 火気を避けて保存。
使用期限：紙箱、容器等に記載
注意：取扱い上の注意の項参照

速乾性手指消毒剤

ヒビスコール液 A 1% Hibiscohol A 1%

*【禁忌(次の場合には使用しないこと)】

- (1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 脳、脊髄、耳(内耳、中耳、外耳)
〔聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。〕
- (3) 膣、膀胱、口腔等の粘膜面
〔クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。〕
- (4) 損傷皮膚及び粘膜〔エタノールを含有するので、損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。〕
- (5) 眼

**【組成・性状】

**1. 組成

本剤100mL中にクロルヘキシジングルコン酸塩1gを含有する。添加物としてアジピン酸ジイソブチル、アラントイン、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸グリセリル、ミリスチン酸イソプロピル、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、pH調整剤、エタノールを含有する。

2. 性状

本剤は無色澄明な液で特異なおいがある。

【効能・効果】

手指・皮膚の消毒

【用法・用量】

手指・皮膚の消毒には、洗浄後、1日数回適量を塗布する。

*【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の場合には慎重に使用すること)

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある者
- (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある者

* 2. 重要な基本的注意

- (1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。
- (2) 本剤は希釈せず、**原液のまま使用すること。**
- (3) 産婦人科用(膣・外陰部の消毒等)、泌尿器科用(膀胱・外性器の消毒等)には使用しないこと。
- (4) 本剤の使用中に誤って眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には、直ちによく水洗すること。
- (5) 広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。(エタノール蒸気が大量に又は繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。)

* 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

* (1) 重大な副作用

ショック(0.1%未満)、**アナフィラキシー**(頻度不明)
ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	0.1%未満
過敏症 ^{注1)}		発疹・蕁麻疹等
皮膚 ^{注2)}	刺激症状	

注1) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

注2) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

4. 適用上の注意

投与経路：外用にのみ使用すること

使用時：

- (1) 反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- (2) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分洗い落としてから使用すること。
- (3) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。
- (4) 引火性、揮発性があるため**火気には十分注意すること。**
- (5) 溶液の状態でも長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。

5. その他の注意¹⁾

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

【薬効薬理】

1. クロルヘキシジンは低濃度でグラム陽性・陰性の多数の微生物に対し強力かつ広範囲な抗菌スペクトルをもって殺菌並びに静菌作用を示す²⁾が結核菌、細菌芽胞、ウイルスに対して効果は期待できない。しかし、本剤はエタノールが補完的に作用するため結核菌や一部のウイルスにも有効である。また、エタノール揮散後クロルヘキシジンの薄い膜を形成し殺菌時間は持続する。
適応菌種：グラム陽性・陰性菌、結核菌、真菌、一部ウイルス
2. 本剤は、*in vitro*の試験において、グラム陽性菌、グラム陰性菌及び真菌を15秒以内に殺菌した³⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：クロルヘキシジングルコン酸塩
(Chlorhexidine Gluconate)

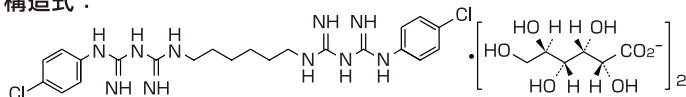
化学名：1,1'-Hexamethylenebis[5-(4-chlorophenyl)
biguanide], di-D-gluconate

分子式：C₂₂H₃₀Cl₂N₁₀・2C₆H₁₂O₇

分子量：897.76

性状：通常、水溶液として存在し、その20W/v液は、無色～微黄色の澄明な液体で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸(100)と混和する。本品1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。光によって徐々に着色する。比重 d₂₀²⁰：1.06～1.07

構造式：



**【取扱い上の注意】

〈注意〉

本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

**〈安定性試験〉⁴⁾

相対比較試験(40℃、相対湿度75%、3ヶ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、本剤は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包装】

500mL、600mL、1L

【主要文献】

- 1) 大利隆行 他：アレルギー、33(9)707(1984)
- 2) Davies G.E. et al：Br.J.Pharmacol., 9, 192(1954)
- 3) サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料
- 4) サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料

【文献請求先】

サラヤ株式会社 学術部
〒541-0051 大阪市中央区備後町4-2-5
TEL：06-4706-3938